

目 次

I	平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	12
2	調査問題一覧表【設問別】	13
3	特徴的な問題と解説	14
iv	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	特徴的な問題と解説	20
III	調査結果概況【市全体】	24
IV	成果・課題と解決の糸口	26

I 平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日等

- (1) 調査実施日は、平成31年1月9日(水)とする。
- (2) 小学校第1、2学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて調査用紙の家庭への配付日を決定し、適切な回収期間を設定して実施する。
- (3) 小学校第3～6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて別日に行うことを可能とする。ただし、学校または学年で実施日を統一して実施する。

4 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

＜表1＞ 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時		
		国語	算数	社会	理科		
小学校	第1学年						30
	第2学年						
	第3学年	20	20				
	第4学年	20	20				
	第5学年	40	40	40	40		
	第6学年	40	40	40	40		

<表2>

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	30
中学校	第1学年	国語	数学	理科	グローバル・スタディ (英語)	社会	
		50	50	50	50	50	
	第2学年	国語	数学	グローバル・スタディ (英語)	社会	理科	
		50	50	50	50	50	
	第3学年	国語	数学	社会	理科	英語	
		50	50	50	50	50	

※ 第1、第2学年の「グローバル・スタディ」(英語)及び第3学年の英語の調査は、リスニングテストを含むため、学年により実施順序を変えることとする。なお、網掛けは中学校長会主催の「さいたま市学力検査」を示す。

(2) 調査事項

ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題に関わる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「平成30年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「平成30年度 さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一あるいは類似の問題を出題している。社会科については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
八方位に関する問題	小5[1] (1)、小6[1] (1)、	類似問題
地図記号の理解に関する問題	小5[1] (2)、小6[1] (2)	同一問題
方位と地図記号を活用する問題	小5[1] (3)、小6[1] (3)、中1[1] (1)	類似問題
都道府県の名称と位置に関する問題	小5[4] (1)、小6[2] (1)、中1[1] (3)	類似問題
赤道に関する問題	小5[3] (2)、小6[3] (2)	類似問題
地図に示された地点の雨温図に関する問題	日本地理…小5[4] (2)、中2[3] (3) 世界地理…中1[3] (3) (4)、中2[1] (2)	類似問題
西暦と世紀の関係に関する問題	中1[4] (2)、中2[5] (2)	類似問題
明治期以降の人物に関する問題	小6[9] (2)、中1[1] (4)	類似問題

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成30年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	①	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率①（2）39.5%（4）65.3%）において課題がみられた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。平成29年度は【小5】（正答率①（2）88.9%（3）76.7%）と向上がみられたため今回は地図記号を多用し、地図記号を探すことができるかをみる問題、文章で書かれた道順を地図上に線で表すことができるかをみる問題を出題した。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
事故の防止	②	本問題は、平成29年度市調査【小5】（正答率②（2）69.0%）において課題がみられた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関する問題である。今回は、関係諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを資料から読み取ったり、事件や事故の防止が関係諸機関の協力によって成り立っていることを図から読み取り、記述したりすることができるかをみる問題を出題している。
我が国の国土	③	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率③（2）55.9%）において課題がみられた「赤道についての理解」を含む世界の主な大陸と海洋、我が国の位置と領土に関する問題である。今回は、地図から我が国の位置を世界の広がりの中で表したり、赤道について正しく理解したりしているかをみるため、小5と小6、中1で類似の問題を出題している。
我が国の国土	④	本問題は、平成27年度市調査【小5】（正答率④（4）43.3%）平成28年度市調査【小5】（正答率④（2）77.0%）において改善傾向がみられた、複数の地域の気温と降水量のグラフ（雨温図）を、比較しながら特徴を正しく読み取ることができるかをみる問題である。平成28年度と平成29年度は同一の問題であったが、今回は、児童の資料分析力の推移をみるために、過去3年間の類似の問題を出題している。
人々のくらし 自然条件と	⑤	本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫について分類・整理し、野辺山原の気候を資料から読み取り、地域の産業と関連付けて考えることができるかをみる問題を出題している。
農業	⑥	本問題は、平成27年度市調査において課題がみられた「資料から必要な情報を読み取る技能」に関する問題である。昨年度に引き続き、米づくりカレンダーから必要な情報を読み取るとともに、資料を比較しながらみること、昔と現在の米づくりの違いや人々の工夫を読み取ることができるかをみる問題を出題している。
水産業	⑦	本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、資料から日本の漁業の輸送における特色を読み取ることができるかをみる問題、資料を関連付け、水産資源の保護、育成を図るための工夫を読み取ることができるかをみる問題を出題している。
食料生産	⑧	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率⑦（2）43.1%）、平成29年度市調査（正答率⑧（2）43.9%）において課題がみられた「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。今回は、経年比較するために、食料生産に関する問題点をグラフから読み取ることができるかをみる問題、食料を安定して生産し続けるための具体的な方法を選ぶことができるかをみる問題を出題している。
工業生産	⑨	本問題は、平成29年度市調査【小5】（正答率⑨（1）52.8%（2）65.7%）において課題がみられた「複数の資料から情報を読み取る」「社会的事象の目的や意味を考えられる」ことに関する問題である。今回は、日本の工業生産の様子の変化の特徴を読み取ることができるかをみる問題と、工業生産と運輸を関連付けて、工業地域の立地条件を考えることができるかをみる問題を出題している。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成24年度全国調査	平成24年度 小学校学習指導要領実施状況調査 社会※抽出調査
平成〇年度市調査【小〇】	平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇社会

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点					問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	社会的な事象についての		正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	八方位(南西)を理解している。	○					○		短	67.6	2.6	H29市【小5】 【小6】	70.6 69.9	小6	64.0
1(2)	寺の地図記号を理解している。	○					○		選	94.1	0.6	H29市【小5】 【小6】	88.9 89.5	小6	96.2
1(3)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○			記	74.0	6.0	H29市【小5】 【小6】	76.7 82.7	小6 中1	81.5 69.2
2(1)	市内で交通事故が起きた時の連絡の仕組みを理解している。	○				○			選	95.5	0.2				
2(2)	資料を基に、安全な暮らしを守るための工夫や努力について理解している。		○	○	○				選	95.9	0.2				
3(1)	ユーラシア大陸の名称や日本との位置関係を理解している。	○				○	○		選	78.2	0.6	H29市【小5】 【小6】	74.7 88.3	小6	65.5
3(2)	赤道について理解している。	○					○		選	70.4	0.6	◎H29市【小5】 【小6】	81.3 69.6	小6	68.4
4(1)	栃木県の名称と位置を理解している。	○		○			○		選	67.6	3.3	H29市【小5】 【小6】	77.3 86.2	小6 中1	73.2 61.1
4(2)	日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図を、正しく読み取ることができる。	○				○			選	86.2	0.5	H29市【小5】	82.0	中2	76.1
5(1)	高地に広がる野辺山原の地形や気候の特色を理解している。	○			○				選	77.8	0.4				
5(2)	自然条件に適応しながら生活する高地の人々の工夫を分類・整理することができる。		○		○				選	82.6	0.5				
6(1)	米づくりカレンダーを正しく読み取ることができる。	○				○			選	94.1	0.4	H29市【小5】	79.4		
6(2)	米づくりの変化について、資料から分かることを読み取ることができる。	○				○			選	81.4	0.5				
7(1)	水産物の鮮度を保ったまま、店に届ける工夫を理解している。	○					○		選	96.0	0.5				
7(2)	水産物の獲り方や獲る量などを工夫している理由を考えることができる。		○	○	○				選	79.1	0.6				
8(1)	グラフから、日本の主な食料自給率が低いものを読み取ることができる。	○				○			選	92.1	0.6	◎H29市【小5】	95.5		
8(2)	グラフから、穀物の自給率が低く、輸入に頼っている国を読み取ることができる。	○				○			選	42.8	0.6	◎H29市【小5】	43.9		
8(3)	食料を安定して確保するための取り組みについて、理解している。		○		○				選	58.9	0.7	H29市【小5】	41.7		
9(1)	日本の工業生産額の変化のグラフを正しく読み取ることができる。	○				○			選	82.8	1.0	H29市【小5】	52.8		
9(2)	二つの地図資料から、工場の分布と交通の条件について、考えることができる。		○	○	○				記	86.6	4.0				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 我が国の国土の環境

【特徴的な問題】

- ⑤ (2) あやかさんは、野辺山原について調べたことを、下のようにキャッチフレーズをつけてまとめ、みんなに発表することになりました。

【い】に入る、ゆきさんの言葉を、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

野辺山原の人たちは、高地の特ちょうを生かして

【い】



第5学年 4月 教科書上
「自然条件と人々の暮らし」

出題の趣旨

本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、気候条件に特色ある地域についての既習の学習を基に、特色を生かしたその地域の産業について取り上げ、写真や資料から地域の人々の工夫や、地域の特徴を生かした産業について考え、その地域に住む人々の暮らしについて思考を深めることができるかをみる問題を出題している。なお、今回は、気候条件に特色ある地域として、夏でもすずしい地域のくらしの学習した内容を基に、地域の特徴を生かした産業についてキャッチフレーズを作り、発表しているという設定で問題を構成している。

指導のポイント（因子④ 「児童生徒の活動」）

○ 新たな社会的事象に出合った際に、既習を生かした問題意識をもたせる。

児童が、日常生活で夏でもすずしい地域の特徴を生かしたくらしの様子に出合ったときに、既習の「あたたかい地域」の学習を想起し、社会的な見方・考え方を活用できる児童を育成したい。そのために、日頃の社会科授業において、既習の学習内容から、空間的思考を深める場面を意図的に設定することが大切である。

○ 既習内容を活用し、新たに調べたことを表で分類・整理する。

調べたことについて観点を明確にし、分類・整理することで、いくつかの事柄を比較して考えることができ、共通点や類似点から、地域の特徴あるくらしについて見付けやすくなる。

教師は、学習課題の答えを導き出せるよう、児童の気付きから、切り返して発問をしたり、板書の中で視覚的に表したりするとよい。

学習課題

野辺山原でくらす人々は、高地の特ちょうを生かして
どのような産業をしているのだろう。

①農業

- ・白菜を収かくしている
- ・レタスを収かくしている
- ・キャベツを収かくしている

高原野菜

（暑さに弱い）

②らく農

- ・にゅう牛を育てている
- ・牛にゅうの生産

加工してチーズ

にゅう牛を

飼いやすい

（暑さに弱い）

夏でもすずしい気候が必要

野辺山原でくらす人々は、高地のとくちょうを生かして、高原野菜作りやらく農など、夏でもすずしい気候にてきた産業を行っている。

キャッチフレーズ：高地のすずしい特ちょうを生かした野辺山原

単元の学習のまとめとして、キャッチフレーズを作る。

T：なぜ、白菜やレタスなどの葉物が多いのかな？

T：なぜ、にゅう牛をたくさん育てているのかな？

○教師の手立て

- ・地域の特徴を項目別にまとめる。
- ・既習の気候や地形を基に児童の発言を関連付け、矢印でつないで板書をする。
- ・各項目について共通点を考える。
- ・単元の最後に調べた地域にキャッチフレーズをつけ、根拠を基に自分の言葉で地域の特徴を発表できるようにする。

このように、野辺山原の気候や地形についての学習で身に付けた見方・考え方を生かすと、他地域で暮らす人々も自然環境に適応しながら生活していることをとらえることができる。既習の学習内容を想起し、新しい社会的事象について汎用的に考えられる児童を育てたい。

小学校第5学年 工業生産

【特徴的な問題】

- ⑨ (2) さとしさんたちは、資料2と資料3をもとに、北関東工業地域の場所について話し合いました。次のふきだしの中の【あ】に入る、ふさわしい言葉を書きましょう。



それは、高速道路などの交通が発達していて、製品を【あ】ために便利だからですね。

第5学年 11月
教科書上「工業の今と未来」

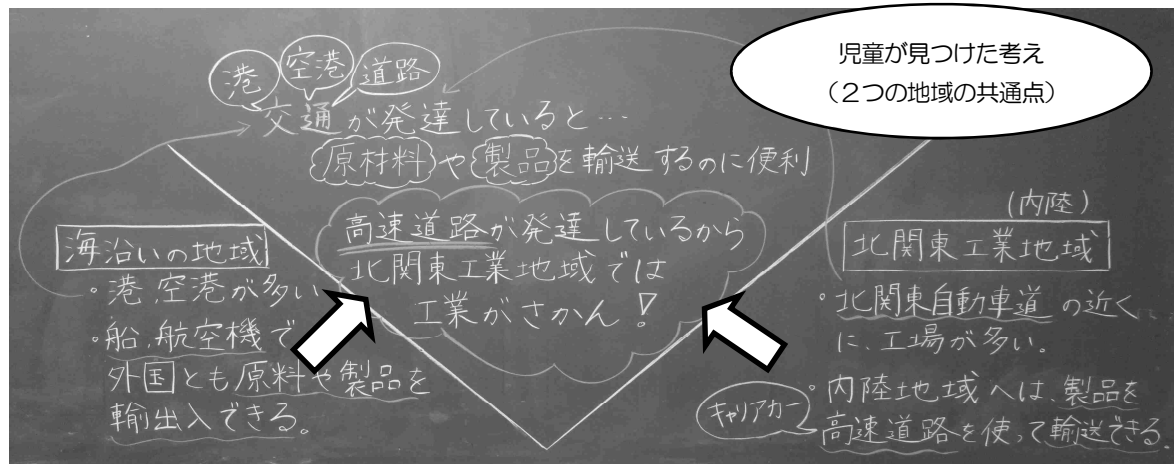
出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査【小5】(正答率⑨(1) 52.8% (2) 65.7%)において課題とされた「社会的事象の目的や意味を考えられること」に関する問題である。今回は、日本の工業生産の変化や特徴を読み取ることができるかどうか、工業生産と運輸を関連付けて、工業地域の立地条件を考えることができるかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント (因子③ 授業スキル、因子④ 児童生徒の活動)

- 資料から読み取ったことを活用し、自分の考えを表現する力を高める
 - ・ 社会的な見方・考え方を活用し、資料を読み取る場面を、意図的に授業の中に設定する。
 - ・ 学習のねらいに迫るために、資料を読み取る視点を焦点化させる。
 - ・ 社会的事象の意味をとらえさせるために、資料から読み取った情報を解釈し、内容を整理する。
- 資料から読み取った知識を関連付け、社会的事象の目的や意味への理解を深め、表現させる
 - ・ 資料を読み取って児童が考えたことや話し合ったことを、整理して「見える化」し、まとめていく。

学習課題 北関東工業地域で、工業がさかんなのはなぜだろう。



考え方1



海沿いは、空港や港があります。

空港や港があり、船や航空機で外国から原料を輸送するのに便利だから、海沿いに工業地域が広がっています。

地図で調べると、工場の近くに、北関東自動車道があります。

キャリアカーなどの大きな車も、高速道路を使って製品を運ぶことができます。

考え方2



それぞれの工業地域の特色から共通性を見付ける際、板書を構造的に工夫することにより、共通点が明確となり、児童が自分の言葉でまとめやすくなる。

ii 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

①身近な地域や市	本問題は、平成26年度からの市調査において、継続して課題がみられた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。平成29年度は【小5】（正答率①（2）88.9%（3）76.7%）と向上がみられたため今回は地図記号を多用し、地図記号を探すことができるかをみる問題、文章で書かれた道順を地図上に線で表すことができるかをみる問題を出題した。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5、小6で同一の問題を出題している。
②県の様子	本問題は、平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、埼玉県の特徴について、資料から情報を読み取り、考えられることを関連付けた語句を用いながら表現できるかをみる問題を出題している。
③我が国の国土	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率③（2）55.9%）において課題がみられた「赤道についての理解」を含む「世界の主な大陸や海洋」に関し、世界の大陸や海洋、主な国の名称と位置と我が国との位置関係を理解しているかどうかをみる問題である。昨年度と同様、課題の改善状況を把握するため、小5、小6で類似の問題を出題している。
④情報化された社会	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率⑥（3）41.7%）において課題がみられた「指定された用語を用いて社会的現象の関係を文章で表現すること」に関する問題である。今回は、病院と図書館で利用されている情報ネットワークの特色についてベン図を用いて分類したり、それらを関連付けながら共通点を考え、指定の用語を用いて表現したりできるかをみる問題を出題している。
⑤狩猟・採集や農耕の生活	本問題は、平成29年度市調査【小6】（正答率⑥（1）62.6%（2）64.4%）において課題がみられた「基本的な知識・理解」に関する問題である。今回は、貝塚や集落跡地の遺跡を取り上げ、狩猟や採集の生活が営まれていたことや米作りが始まったことによる人々のくらしの変化について理解しているかをみる問題を出題している。なお、経年比較をするために、昨年度と類似の問題を出題している。
⑥大仏造営と大陸文化	本問題は、平成27年度市調査【小6】において出題された聖武天皇の業績の理解及び資料から天皇中心の国づくりについて表現する問題と類似の「基本的な知識・理解」に関する問題である。また今回は、資料から正倉院の宝物や地図から当時の大陸と日本の関わりについて読み取ることができるかをみる問題を出題している。
⑦鎌倉幕府	本問題は平成28年度市調査において課題がみられた「社会的現象の目的や意味を考えること」に関し、「観点に基づいて、社会的現象を分類・総合するという思考力」についての問題である。今回は、鎌倉の様子（復元模型）などの資料を基に、頼朝が鎌倉の地に幕府を開いた理由を調べ、図に整理し、まとめる力があるかをみたり、武士中心の幕府の中で、幕府と御家人との関係について理解しているかをみたりする問題である。
⑧全国統一	本問題は、「織田信長及びザビエルの業績の理解」に関する問題である。長條の戦いを取り上げ、織田信長が戦い方を工夫したことを理解しているかどうかをみる問題である。なお、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から平成28年度市調査【中2】（正答率⑤（5）62.6%）で出題された、近世のヨーロッパ人来航の影響に関連した問題を出題している。
⑨近代国家に向けて	本問題は、平成27年度市調査【小6】で課題がみられた「明治期以降の歴史上の人物と業績」に関する問題であり、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めた意味を考える問題である。「さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点」において目指す資質・能力で挙げられている「社会的現象等に関する理解などを図る」に関する問題である。明治政府の政策や自由民権運動の目的について問う問題である。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	関心的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	選択式・記述式・短記	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1(1)	八方位(南西)を理解している。	○					○	短	64.0	2.5	H29市【小5】 【小6】	70.6 69.9	小5	67.6
1(2)	寺の地図記号を理解している。	○					○	選	96.2	0.3	H29市【小5】 【小6】	88.9 89.5	小5	94.1
1(3)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○		記	81.5	3.2	H29市【小5】 【小6】	76.7 82.7	小5 中1	74.0 69.2
2(1)	群馬県の名称と位置を理解している。	○		○			○	選	73.2	0.6	H29市【小5】 【小6】	77.3 86.2	小5 中1	67.6 61.1
2(2)	複数の資料の情報をまとめて、埼玉県の地形の特色を表現することができる。		○	○	○			選	65.6	0.5				
3(1)	ユーラシア大陸の名称や日本との位置関係を理解している。	○				○	○	選	65.5	0.6	H29市【小5】	88.3	小5	78.2
3(2)	赤道について理解している。	○					○	短	68.4	6.8	◎H29市【小5】 【小6】	81.3 69.6	小5	70.4
3(3)	中華人民共和国の国旗と位置を理解している。	○					○	選	84.2	0.6	H29市【小6】	67.6		
4(1)	図書館で活用されている情報ネットワークの特色について考えることができる。	○			○	○		選	85.8	0.7	◎H29市【小6】	88.1		
4(2)	病院や図書館で利用されている情報ネットワークの共通点を考え、指定された用語を使って表現することができる。		○	○	○			選	95.1	0.5	H29市【小6】	70.9		
5(1)	真福寺貝塚から出土したものから、当時の人々のくらしを考えることができる。	○					○	選	46.9	0.3	◎H29市【小6】	62.6		
5(2)	米づくりが始まり、さかんになり、人々のくらしがどのように変化したのか理解している。	○			○		○	選	73.4	0.3	H29市【小6】	64.4		
6(1)	聖武天皇の大仏づくりに行基らの協力があつたことを理解している。	○					○	選	63.0	0.4				
6(2)	正倉院の文化財がシルクロードを通り日本に伝わってきたことを理解している。	○			○	○		選	69.7	0.5				
7(1)	源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由について考えている。		○	○		○		選	67.5	0.7				
7(2)	鎌倉街道や元寇の様子から、御家人と幕府の関係について理解している。	○					○	選	92.2	0.4				
8(1)	織田信長が長篠の戦いで鉄砲を使ったことを理解している。	○					○	選	67.4	0.5	◎H29市【小6】	67.5		
8(2)	ザビエルがキリスト教を広めたことを理解している。	○					○	短	72.8	7.7	H29市【小6】	81.0		
9(1)	複数の資料から、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めた意味を考えている。		○		○		○	選	49.0	0.7				
9(2)	板垣退助の自由民権運動の目的について理解している。	○					○	短	70.8	7.1			中1	43.3

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げて（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 埼玉県の特徴

【特徴的な問題】

- ② (2) 3ページの資料1と資料2から、埼玉県全体で、**【い】**の地形は、およそどれぐ
らいの割合で広がっていると考えられますか。**【い】**の中にある二つの言葉のうち、
どちらかの言葉を使い、下の文を完成させましょう。

【A】 山地 低地

【B】 3分の1 6分の1



秩父市がある西の方の地形は **【い】** が広
がっているね。A—Bで切り取った図を見ると、埼
玉県の土地の高さの様子がよく分かるね。

第4学年 社会科読本わたしたちのさいたま
「埼玉県の地形や産業の様子」

出題の趣旨

本問題は、平成24年度からの市調査において、継続して課題が見られた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、埼玉県の地形の特徴について、資料から情報を読み取り、与えられた語句の中から、その情報と関連付いた語句を用いながら表現できるかをみる問題を出题している。

指導のポイント (因子④ 児童生徒の活動)

学習課題 埼玉県の地形は、どのような特徴があるのだろう。

① 複数の資料から、必要な情報(知識)を読み取らせる。

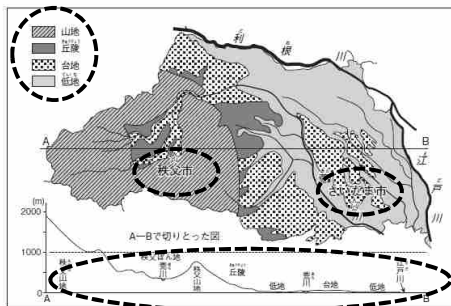
資料から情報(知識)を読み取る



それぞれの資料から、どのようなことが読み取れますか。

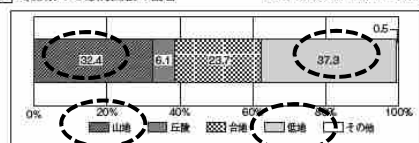
埼玉県の地形は、様々な特徴があります。どのような特徴がありますか。

資料1 埼玉県の地形の様子



資料2 埼玉県の地形別面積の割合

埼玉県統計調査資料(2018)より作成



資料1から、わたしたちが住むさいたま市は、低地が多く広がっていることが分かります。

秩父市がある西の方は、さいたま市とは違って、山地が多く広がっています。

断面図を見ても、東の方よりも西の方が、地形が高いことがはっきりと分かります。

資料2を見ると、地形の割合で1番多くしめているのは低地で、その次が山地ということが分かります。

② 読み取った情報(知識)を関連付ける。

情報(知識)を関連付ける



それぞれの資料から読み取った情報(知識)を組み合わせると、埼玉県の地形の特徴についてどのようなことが分かってきますか。

複数の資料から断片的に読み取った情報を関連付けて、県全体の地形の特徴について思考させたいですね。

埼玉県の地形は、山地がおよそ3分の1、低地もおよそ3分の1をしめています。西の方は地形が高く、わたしたちが住むさいたま市がある東の方は低くなっています。

※下線部は、本問題解答

③ 情報(知識)を関連付け、思考したことを表現させる。

まとめ

埼玉県の西の方は、山地が多く広がり高くなっている、東の方は、低地が多く広がり低くなっている。

自分の言葉で記述させ、表現する力を伸ばしていきたいですね。

小学校第6学年 新しい時代の幕あけ

【特徴的な問題】

- 9 (1) れいなさんは、を見てまとめをしました。下の文の【あ】を完成させようとした時、適切でないものを次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

明治政府は、【あ】国をつくるために、国内の産業をさかんにし、経済力と軍事力を高めようと、富国強兵という国の政策を行った。

- 1 西洋に負けない 2 西洋に認められる 3 西洋と対等な 4 西洋と関わらない

第6学年 9月 教科書上「新しい時代の幕あけ」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査【小6】で課題とされた「明治期以降の歴史上の人物と業績」に関する問題であり、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めた意味を考える問題である。今回は資料から読み取ったことを基に、明治政府が富国強兵の政策を行ったのは、西洋に追いつけるような国づくりを目指したからだということについて考え、理解しているかをみるために出題している。

指導のポイント (因子④ 児童生徒の活動)

○社会的事象の目的や意味を考える指導を充実させる。

- (1) 観点に基づく資料の読み取りをする。

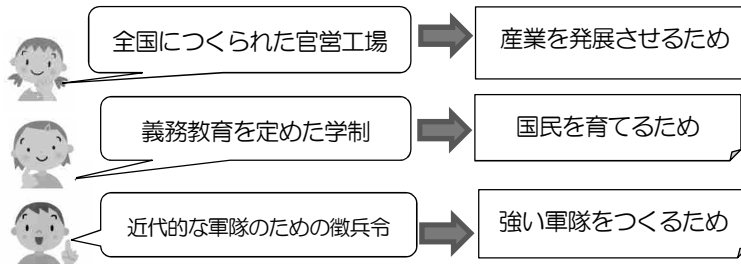
【児童の活動】

学習課題

明治政府は、どのような国をめざして政策を行ったのだろう。

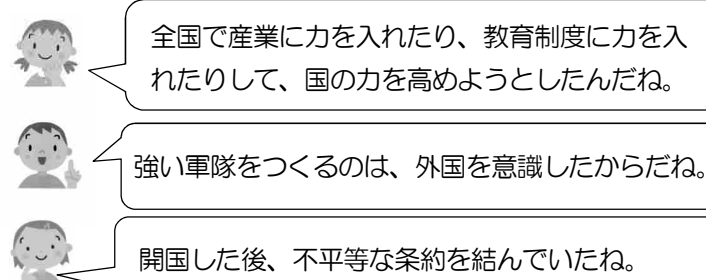
資料の読み取り(個人)… より

<調べたこと> <調べたことから考えたこと(付箋)>



- (2) 調べたことから、学習課題のまとめを考える。

<グループでの話し合い>



<まとめ> 明治政府は、西洋に負けない国をつくるために富国強兵の政策を行った。

【指導上の留意点】

学習課題には、2つの活動が含まれている。様々な政策を調べることと、その目的を考えることである。2つを確認して本時の学習の見通しをもたせる。

教科書や資料集を活用させ、情報を集めさせる。調べて分かったことから、考えたことを可視化するため付箋にまとめる。調べる内容が多かったり、一人で取り組むのが難しい児童がいたりする場合、グループワークで取り組む方法もある。

調べただけで終わらないように、調べたこと(事実)からグループや全体で話し合いまとめる。

個人で読み取ったものをグループで持ち寄り、まとめさせる。キーワードや共通点を見付けられるように声をかけていく。活動だけで終わらないよう、最後に自分の言葉でしっかり表現させることが大切である。

iii 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 小学校の復習	本問題は、平成29年度市調査【中1】（正答率①（1）47.6%）において課題がみられた「方位と地図記号を基に、地図を読み取ること」や、平成29年度市調査【中1】（正答率①（5）18.6%）において課題がみられた「日本国憲法についての理解」に関する問題である。また、①（2）では、平成28年度市調査【小5】で扱った資料を改編し、「観察・資料活用 of 技能」に関する問題も出題している。今回は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、中学校で扱う学習内容の基礎となる小学校での既習事項の定着が図られているかをみる問題を中心に出题している。
② 世界の地域構成	本問題は、平成28年度市調査【中1】（正答率②（6）36.9%）において課題がみられた「地図上にある地点を、緯度と経度を使って表すこと」に関する問題である。また、平成28年度市調査【中1】（正答率②（5）53.9%）、平成29年度市調査【中1】（正答率②（4）59.5%）において継続して課題がみられた「地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けること」についての問題は、地球上の位置に関する知識が定着しているかをみるために、中2においても経年比較の視点から出題している。今回は、本初子午線の位置に関する問題や、大陸の名称に関する問題のほか、グリーンランドとオーストラリア大陸の面積の比較による地図の特徴に関する問題などを出題している。
③ 世界各地の人々の生活と環境	本問題は、平成29年度市調査【中1】（無解答率③（3）10.3%）において課題がみられた「複数の資料を基に、世界各地の気候について説明すること」に関する問題である。今回は、冷帯の地域の人々の生活の様子を、夏と冬の服装を示した写真資料から読み取り、気温差が大きいことを裏付ける雨温図と関連付けて記述することができるかをみるために出題している。今回は、地図を基に、南半球の熱帯の特色を示す雨温図を選択する問題、住居の資料から乾燥帯の地域に住む人々の生活の様子に関する問題、世界の宗教と人々の生活や文化に関する問題、地図を参考にしてサッカーワールドカップの開催国に含まれていない州を選択する問題を出題している。
④ 歴史のとらえ方	本問題は、平成28年度市調査【中1】（正答率④（2）38.0%）及び平成29年度市調査【中1】（正答率④（2）47.2%）において継続して課題がみられた「西暦と世紀の関係や年号についての理解」、また、平成29年度市調査【中1】（正答率④（3）65.3%）において課題がみられた「資料に関連する時代名の理解」に関する問題である。今回は、略年表と小学校で扱った歴史的な事象や人物を基に、時代の名称や時代区分の方法、大まかな時代の特徴の理解に関する問題など、基礎的・基本的な知識の定着が図られているかをみるために出題している。今回は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、歴史上の人物として郷土の偉人を取り上げ、出題している。また、世紀の表し方に関する問題は、歴史的な分野における基礎的・基本的事項として、中2においても経年比較の視点から出題している。
⑤ 古代までの日本	本問題は、平成29年度市調査【中1】（正答率⑤（3）27.5%）において課題がみられた「むらや小さな国ができた頃の文化財についての理解」や、平成29年度市調査【中1】（正答率⑤（6）35.0%）において課題がみられた「藤原氏がどのように勢力をのばしていったかを説明すること」に関する問題である。今回は、我が国の原始から古代までの政治や文化の特色、世界の歴史の様子についても出題している。さらに、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小学校での既習事項に関連する、中大兄皇子が活躍した頃の政治の様子に関する問題や、遣隋使の目的を説明する記述問題についても出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的な思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解 社会的事象 についての	選択式・ 短記式・ 記述式・ 選択式・ 短記式	平均正 答率 (%)	無 解 答 率 (%)	出 題 年 度 ・ 調 査 名 【 学 年 】	平均正 答率 (%)	出 題 学 年	平均正 答率 (%)
1(1)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○		○	○	○	選	69.2	0.7	H29市 【小6】	69.9	小5 小6	74.0 81.5
1(2)	統計資料のテーマに応じた適切なグラフを選ぶことができる。	○			○		選	87.9	0.3				
1(3)	都道府県の位置と名称(山形県)について理解している。	○				○	短	61.1	7.3	H28市 【中1】	56.1	小5 小6	67.6 73.2
1(4)	江戸時代末期～明治期に活躍した人物の業績について理解している。	○				○	選	43.3	0.5	H29市 【中1】	83.0	小6	70.8
1(5)	日本国憲法における国民の権利について理解している。	○				○	短	68.5	5.1	H29市 【中1】	18.6		
2(1)	地図上の0度の経線の位置について理解している。	○				○	選	53.8	0.6	H29市 【中1】	73.3		
2(2)	緯線と経線が直角に交わった地図の特徴について理解している。	○				○	選	62.7	0.8				
2(3)	南極大陸の位置と名称について理解している。	○			○	○	短	72.9	5.0				
2(4)	地図上にある地点を、緯度と経度を使って表すことができる。	○		○	○	○	選	59.2	0.6	H29市 【中1】	62.0		
2(5)	地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けている。		○		○	○	選	69.9	0.5	H29市 【中1】	59.5	中2	76.6
3(1)	乾燥帯の地域で暮らす人々の生活の様子について理解している。	○				○	選	83.2	0.6				
3(2)	世界の宗教と人々の生活や文化の関わりについて理解している。	○				○	選	63.8	0.8	H29市 【中1】	49.7		
3(3)	複数の資料を基に、冷帯の気候の特色と、その地域の人々の生活の様子について説明することができる。		○	○		○	記	63.0	3.9	H28市 【中1】	63.6		
3(4)	南半球の熱帯の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○	○	選	57.8	1.5	H29市 【中1】	87.0	中2	65.3
3(5)	世界の主な国々の名称と位置や、地域区分について理解している。	○			○	○	選	81.0	1.5	H28市 【中1】	49.6		
4(1)	資料を見て、関連する時代の名称について理解している。	○				○	短	80.3	9.0				
4(2)	西暦と世紀の関係や、年号(元号)について理解している。	○				○	選	61.4	2.4	H29市 【中1】	47.2	中2	62.6
4(3)	資料を見て、関連する時代の名称について理解している。	○				○	選	67.1	2.8	H29市 【中1】	83.8		
5(1)	資料を基に、原始から古代に活躍した人物を年代の古い順に並べ替えることができる。	○		○		○	選	72.8	0.9	H29市 【中1】	78.7		
5(2)	中大兄皇子が活躍した頃の日本の様子について理解している。	○				○	選	64.7	1.1				
5(3)	卑弥呼が活躍していた頃と同じ時代の文化財について理解している。	○				○	選	68.6	1.1	H29市 【中1】	27.5		
5(4)	藤原氏がどのようにして勢力をのばしたのか理解している。	○				○	短	66.1	13.3	H29市 【中1】	35.0		
5(5)	国風文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組み合わせを、正しく選ぶことができる。	○		○	○	○	選	45.4	1.6				
5(6)	遣隋使が派遣された理由について説明することができる。	○		○		○	記	50.3	16.8				
5(7)	世界の古代文明の特色について理解している。	○				○	選	69.3	2.1				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と平均正答率を示している。

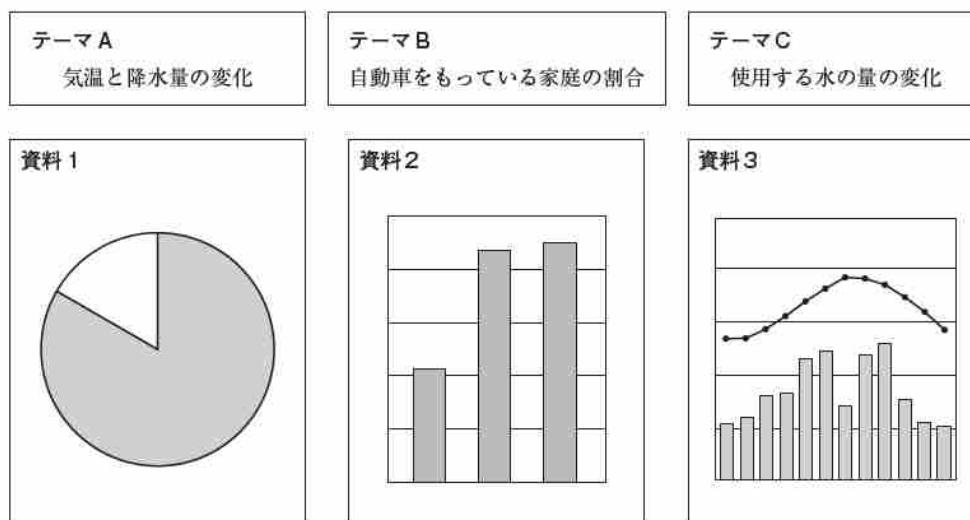
★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「小学校の復習」

【特徴的な問題】

- 1 (2) まりこさんは、調べ学習で、次のテーマA～テーマCをグラフに表すことにしました。各テーマを下の資料1～資料3のグラフで表すとき、どのグラフが最も適切ですか。各テーマと資料の適切な組み合わせとして正しいものを、下の表のA～Eの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査【小6】における「様々な資料の情報をまとめて、地域資源の保護・活用の目的を考え、指定された用語を使って表現すること」に関連する問題である。小学校第4学年や第5学年の学習で扱った様々なグラフを取り上げ、小学校で培われた「観察・資料活用の技能」が中学校第1学年の段階で十分に身に付いているかをみる問題を出題した。

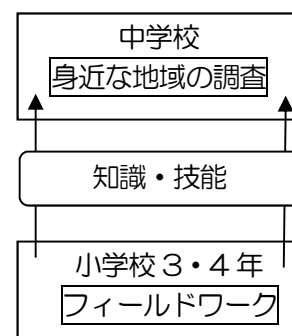
指導のポイント (因子②【基礎アップ】、因子④【児童生徒の活動】)

○ 既出、既習の資料を活用した「技能面での円滑な接続」を目指した指導を行う。

中学校第1学年は、小学校段階で、円グラフ、棒グラフ、帯グラフ、折れ線グラフ、雨温図などの様々な資料を活用した学習活動を行ってきている。その一方で、資料の読み取りや活用能力が不十分な生徒もあり、調べたことや考えたことを表現する力に課題がみられる。そこで、「中学校社会科における中1ギャップ」の緩和を目指した指導の充実を図りたい。例えば、①統計資料をもとに、気温や降水量を表すグラフを作成させる活動、②総量と割合に着目し、複数の帯グラフを関連付けて読み取り、自分の言葉で表現する活動、③統計資料と地図を基に、分布図を作成する活動等が考えられる。

○ 「さいたま市小・中一貫カリキュラム」を活用したアクティブ・ラーニングの充実を図る。

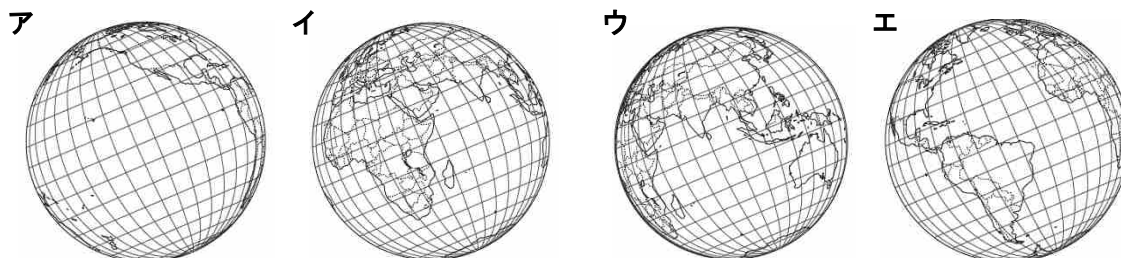
ここでは、小学校で身に付けた知識や技能を想起させた上で、より一層の地理的スキルの向上を目指した。地理的分野の「身近な地域の調査」の授業例を示す。円滑な接続の指導のポイントとしては、①観察や聞き取り調査などの小学校でのフィールドワークを想起させ、本単位における調査方法を考えさせる、②防災、防犯など、身近な地域をよりよくしていこうとする社会参画の視点から考えさせる、③「小学校で学んだ身近な地域のイメージマップ」をグループで作成させた上で、その調査の結果を考察し、表現させるといった指導計画が考えられる。



中学校第1学年 「世界の地域構成」

【特徴的な問題】

- 2 (5) 次の地図3は、地球儀をみて作成した略地図です。地図3を反対側からみた略地図として正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



(注) 地図3は省略

第1学年 地理「世界の姿」

出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査において課題がみられた「目的に応じた様々な地図を活用すること」に関する問題であり、経年比較の問題として3年間出題している。平成29年度市調査と同様に、地球儀を基に作成した略地図を提示し、世界の地域構成を大観するために必要とされる、地球儀や世界地図の活用に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかをみる問題として出題している。

指導のポイント

(因子①【授業マネジメント】、因子②【基礎アップ】)

- 体験的な活動を通して、大陸や世界の国々の球面上の位置関係をとらえさせる。
地球儀を使った体験的な授業展開の例としては、次のような内容が挙げられる。

《例》地球儀を活用した授業展開

- ・地球儀から大陸や海洋、世界の国々を探し、位置を確認する。
- ・紙テープを用いて、都市間の距離を調べる。
- ・十字に貼ったテープをあて、東西方向へ進むとどこの国に到達するかを調べる。
- ・地球儀と世界地図で、ある陸地（グリーンランドなど）の形や面積の違いを把握する。

また、世界地図においても、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など、目的に応じた様々な地図を取り上げ、それらの特色に留意して読み取りを行わせることなどが考えられる。このような学習活動を通して、地球儀や地図の適切な活用の仕方を身に付けさせることが大切である。そのためには、日常的に地球儀や世界地図に親しむことのできる学習環境を整えることも必要である。

- 意図的・計画的に、地図や地球儀を活用した活動の充実を図る。

世界を大きくとらえたり、学習した成果を整理する際に、世界地図を活用することは大変有効である。また、地図を読み取るだけでなく、略地図を描かせたりすることは、地図に関する技能やその事象に関する理解をより深めさせることにもつながる。中学校地理的分野において「目的に応じた様々な地図」について扱う「世界の地域構成」の単元以降の学習や歴史的・分野の学習においても、意図的・計画的に地図や地球儀を活用し、生徒の地図を活用する技能の向上を図ることが大切である。



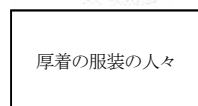
地球儀を使った
授業の様子

中学校第1学年 「世界各地の人々の生活と環境」

【特徴的な問題】

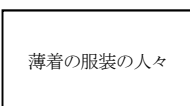
- 3 (3) 地図1中のCの地域について、かなえさんは、次の資料4～資料6を集め、この地域の気候の特色を、下の文のようにまとめました。資料4～資料6を参考にし、〈かなえさんのまとめ〉の に当てはまるように、簡潔に書きなさい。

資料4 Cの地域の冬の服装



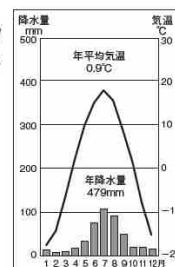
〈かなえさんのまとめ〉

資料5 Cの地域の夏の服装



夏と冬で、

資料6 Cの地域にある都市の気温と降水量のグラフ



(注) 地図は省略

第1学年 地理「世界各地の人々の生活と環境」

出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査において課題とされた「複数の資料を基に、気候の特色について説明すること」に関する問題である。今回は、シベリア地域でみられる、冬と夏の服装の違いと、グラフからみられる1年間の気温の変化について説明する問題として出題している。

指導のポイント (因子②【基礎アップ】、因子③【授業スキル】)

- 資料の読み取り方の視点を身に付けさせる。

まず、地図や既習事項である世界の気候帯の分布図から、イルクーツクの位置と気候帯名を確認させる。次に、服装の写真から、冬は厚着、夏は薄着であることを確認させる。これによって、冬は寒く、夏は暑いことが予想できる。さらに、気温と降水量のグラフから、冬と夏の気温差が大きいことを読み取らせる。このように、生活の様子と、気温と降水量のグラフの両方を確認しながら、的確な説明ができるように指導していきたい。

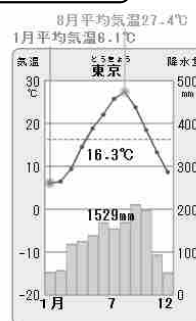
＜例＞雨温図読み取りのポイント



1月と7月で35℃以上の気温差があるね。



東京と比べると…



東京の月ごとの平均気温の差をみると、20℃くらいだから、1年間の気温差がかなり大きいことが分かるね。



- 気候の多様性を、様々な学習活動を通してとらえさせる。

世界各地の人々の生活と環境について取り扱う際は、ICTを効果的に活用し、衣食住に関する特徴的な生活の様子分かる写真等の資料とともに、気温と降水量のグラフを関連付けながらイメージできるようにしたい。世界各地の伝統衣装や、主食となる作物など、特に、生徒の生活体験と結び付きやすい資料を取り上げることは、大変有効である。そして、世界各地の気候の多様性や生活様式の違いに関する学習が、日本の伝統的な生活様式を知る一助となるように指導していきたい。

中学校第1学年 「古代までの日本」

【特徴的な問題】

- ⑤ (2) カードAについて、中大兄皇子が活躍した頃の様子を説明した文として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 朝廷は、支配に従おうとしない東北地方の蝦夷に対してたびたび大軍を送った。
 イ 「大化」という年号が使われ、公地・公民として国家が直接支配する方針が示された。
 ウ 倭の奴国の王が、後漢に使いを送り、皇帝から金印を授けられた。
 エ 伝染病や災害などの不安から国家を守ろうと考え、国ごとに国分寺や国分尼寺を建てた。

第1学年 歴史「古代までの日本」

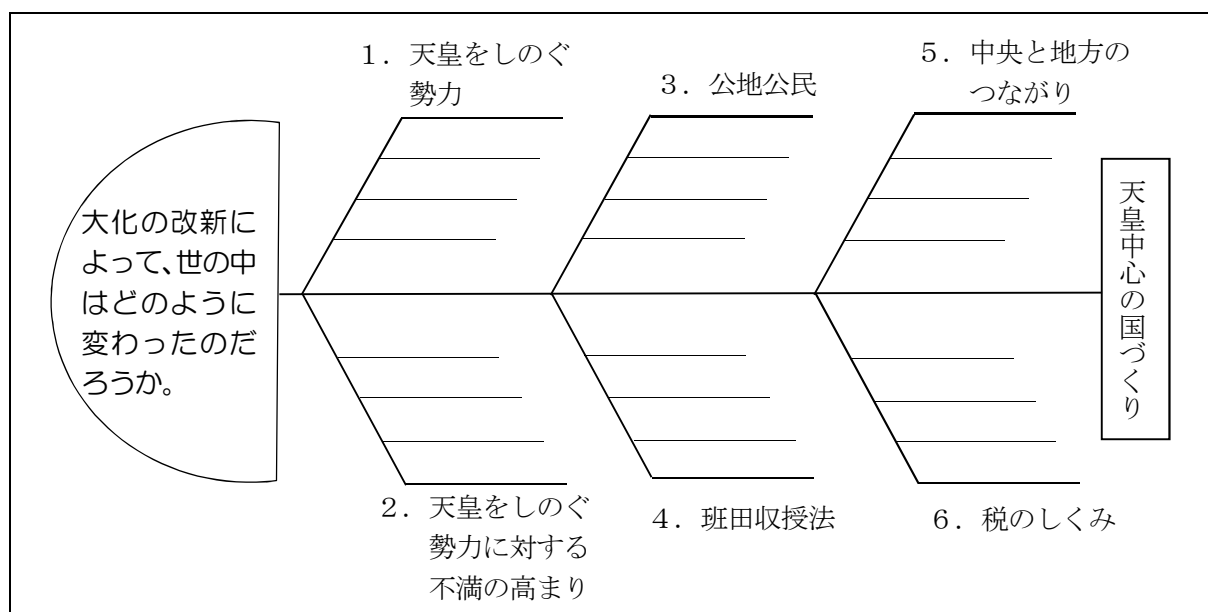
出題の趣旨

本問題は、「律令国家の確立に至るまでの過程」となる「大化」の時代の様子に関する問題である。「飛鳥時代」というと聖徳太子に注目が向いてしまいがちだが、今回は、小学校第6学年での学習内容でも取り上げられている中大兄皇子が活躍した頃の様子について、飛鳥時代から奈良時代に向かう時代の流れが身に付いているかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント (因子④【児童生徒の活動】)

○ 思考ツールを活用して、大化の改新について考察させる。

「大化の改新」という歴史的事象は、小学校での学習内容であるが、具体的に、どのような人物が関わり、どのような背景から起こったのか、詳細な理解は十分でないと考えられる。そのため、「なぜ大化の改新が起こったのか」を考えさせるための一例として、NHKのデジタルコンテンツを活用する。まず、「大化の改新によって、世の中はどのように変わったのだろうか。」という学習課題を設定した上で、メモを取りながら動画を視聴させる。ポイントと考えるキーワードについては、動画の視聴後に振り返り、そのキーワードを時代の変化をとらえる資料として活用させていく。そして、根拠をもって時代の変化を可視化してとらえることができるよう、フィッシュボーン図を活用する。個人で考えをまとめさせた後、学習形態を工夫したペア学習を行わせることで、自分の考えを伝えたり、他人の意見と比較したりすることで、学習に深まりをもたせていく。このような活動を通して、「豪族の力を弱め、天皇中心の国づくりをめざす」時代の大きな動きとその変化に気付かせるようにしたい。



iv 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 世界の各地の人々の生活と環境	本問題は、平成28年度市調査【中2】（正答率②（4）59.3%）において課題がみられた「複数の資料を関連付けて読み取ること」や、「地理的事象の基礎的・基本的な知識や技能」に関する問題である。今回は、中心からの距離と方位の正しい地図に示された赤道などを基に、都市の位置関係や気候の特色をとらえ、その都市を示した雨温図を選択する問題を出題している。また、平成29年度市調査【中2】（正答率②（1）48.6%）において継続して課題がみられた「地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けること」に関する問題は、地球上の位置に関する知識が定着しているかをみるために、中1においても経年比較の視点から出題している。
② 世界の諸地域	本問題は、これまでの市調査において継続して課題がみられた「複数の資料を関連付けて読み取ること」に関する問題である。今回は、複数の資料からアジア州の学習課題を設定する問題、複数の資料からヨーロッパ州におけるEU統合による成果や課題を読み取る問題、北アメリカ州の地域別工業生産額の変化と特色に関する問題や、アフリカ州が抱えているモノカルチャー経済の特色と課題に関する問題を出題している。
③ 日本の地域構成・世界と比べた日本の地域的特色	本問題は、平成29年度市調査【中2】（正答率③（3）43.7%）等において課題がみられた「知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察すること」に関する問題である。今回は、会話文と地図等の資料を基に、日本の地域区分、農産物の主な生産地、高速交通網、資源の活用と環境への配慮についての基礎的・基本的な知識を問う問題や、資料を読み取ったり、説明したりする力をみる問題などを出題している。また、平成29年度市調査【中2】（正答率③（6）47.2%）において課題がみられた「時差を基に、地図上に示された都市の位置を選ぶ」問題も経年比較の問題として出題している。なお、雨温図に関する問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から小5、中1においても経年比較の視点から出題している。
④ 古代までの日本・中世の日本・近世の日本	本問題は、平成29年度市調査【中2】（正答率⑤（5）54.1%、無解答率21.1%）において課題がみられた「資料を基に説明すること」や、同調査（正答率④（5）40.5%）において課題がみられた「中世の民衆の動き」など、各時代の政治や文化等に関する問題である。今回は「貿易」というテーマで、各時代に活躍した4人の人物カードを基に、主に古代から近世までの基礎的・基本的な歴史的事象についての理解や、その歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力をみるための問題、人物が活躍した年代の並べ替えや、資料から同じ年代の文化財を選択する問題、各時代の背景や国内外の情勢を理解する問題なども出題している。
⑤ 古代までの日本・中世の日本・近世の日本	本問題は、平成28年度市調査【中2】（正答率④（4）31.3%）等において課題がみられた「複数の資料を基に、歴史上の人物が行った政策について説明すること」に関する問題である。今回は、古代から近世の歴史的事象に関する略年表を基に、中世の概略に関する問題、歴史的事象と関連のある場所を地図上から選択する問題、文化の特色と代表的な文化財の組み合わせを正しく選択する問題、江戸幕府の改革に関する理解に関する問題などを出題している。なお、年号を参考に世紀を表す問題は、歴史的分野における基礎的・基本的事項として、中1においても経年比較の視点から出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的な思考・判断・表現	資料活用	知識・理解		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1(1)	中心からの距離と方位が正しい地図の見方について理解している。	○			○	○	選	84.0	0.1	H27市【中1】	55.7		
1(2)	北半球の温帯の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○	○	選	65.3	0.3	H28市【中2】	55.6	中1	57.8
1(3)	地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けている。	○			○	○	選	76.6	0.2	H29市【中2】	48.6	中1	69.9
2(1)	複数の資料を基に、アジア州の人口と産業の変化の特色について読み取ることができる。	○		○		○	選	90.6	0.2				
2(2)	複数の資料を基に、ヨーロッパ州内のEU統合による成果や課題について読み取ることができる。	○		○		○	選	72.2	0.3				
2(3)	アメリカの工業の特色について理解している。	○				○	短	20.3	23.7				
2(4)	資料から、モノカルチャー経済の特色を読み取り、その課題について理解している。	○		○		○	選	67.6	1.1	◎ H29市【中2】	76.1		
3(1)	日本の7地方区分について理解している。	○				○	短	73.0	4.9				
3(2)	日本の野菜や果物の栽培が盛んな県について理解している。	○				○	選	83.1	0.5				
3(3)	日本の太平洋側の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○	○	選	76.1	0.4	H29市【中2】	43.7	小5	86.2
3(4)	統計資料を基に、新幹線の路線別輸送量の推移について読み取ることができる。	○		○			選	71.4	0.9				
3(5)	地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会について理解している。	○				○	短	75.6	6.7				
3(6)	複数の資料を基に、日本の人口に関する課題について説明することができる。	○		○		○	記	44.1	8.4				
3(7)	ある都市と日本との時差を基に、地図上にある都市の位置を選ぶことができる。		○	○	○	○	選	49.2	1.2	H28市【中2】	42.3		
4(1)	資料を基に、古代から近世に活躍した人物を年代の古い順に並べ替えることができる。	○		○		○	選	70.3	0.8	H29市【中2】	70.0		
4(2)	平清盛が活躍していた時代の様子について理解している。	○				○	選	49.6	0.9				
4(3)	聖徳太子が活躍していた時代につくられた文化財について理解している。	○				○	選	76.9	0.8	H29市【中2】	73.8		
4(4)	資料を基に、江戸時代の大名統制について説明することができる。	○		○		○	短	62.4	12.8				
4(5)	ザビエルが来日した頃の世界の様子について理解している。	○				○	選	58.7	1.4				
5(1)	中世という時代区分について理解している。	○				○	選	59.7	1.2				
5(2)	西暦と世紀の関係について理解している。	○				○	短	62.6	5.4	H29市【中2】	56.1	中1	61.4
5(3)	平安京が置かれた場所を地図上から選ぶことができる。	○				○	選	53.8	1.1	H27市【中2】	65.3		
5(4)	室町文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組み合わせを、正しく選ぶことができる。	○		○	○	○	選	35.8	1.4	H29市【中2】	54.6		
5(5)	資料を基に、検地と刀狩による影響について説明することができる。		○	○		○	記	40.0	14.5	H28市【中2】	31.3		
5(6)	享保の改革について理解している。	○				○	選	43.7	1.4	H29市【中2】	45.6		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を指す。出題学年と平均正答率を示している。

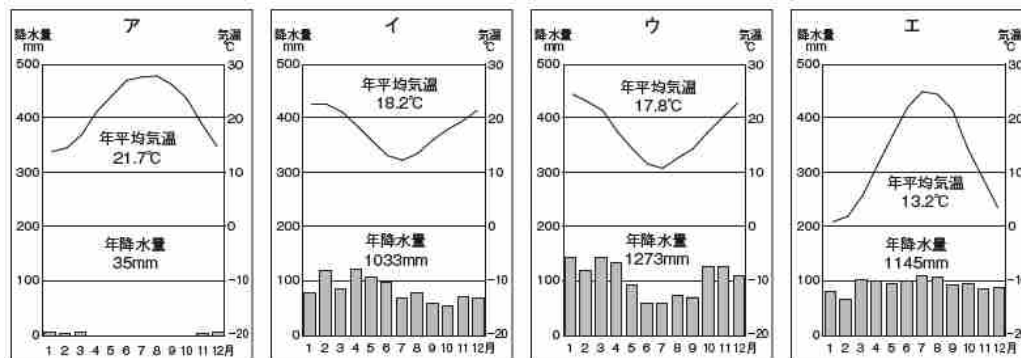
★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 「世界の諸地域」

【特徴的な問題】

- 1 (2) 上の地図1をみて、ニューヨークに当てはまる雨温図を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



(気象庁HPより作成)

第1学年「世界の姿」

出題の趣旨

本問題は、これまでの市調査において継続して課題がみられた「複数の資料を関連付けて考える」ことに関する問題である。

今回は、4つの都市の気温と降水量をあらわすグラフから、気温の変化や降水量の違いを読み取る力や、中心からの距離と方位の正しい地図に描かれている赤道を基準に、地球上の位置をとらえ、答えを導き出す力をみるために出題している。

指導のポイント (因子②【基礎アップ】)

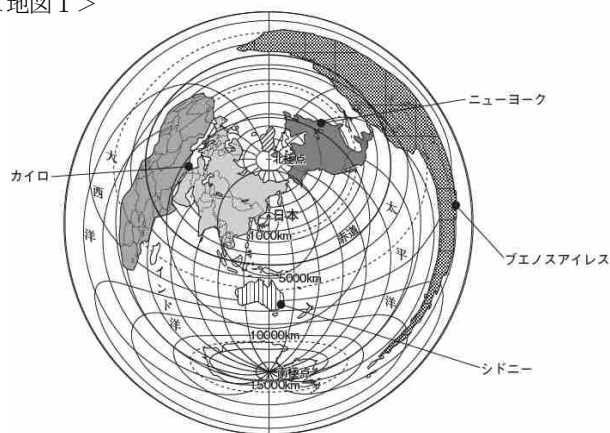
○ 雨温図の読み取り方の視点の定着を図る。

第1学年での既習事項である雨温図の読み取り方については、繰り返し復習し、気温と降水量の変化を読み取る技能を定着させておきたい。基礎的な知識として、「南半球と北半球での気温の変化の違い」や「気温と降水量からみられる気候帯の違い」を判断できるような指導が必要である。そのためには、地球儀や世界地図を用いて、地球上の位置を確認しながら、統計資料を基に雨温図を作図させる作業的な学習や、雨温図から気温と降水量の変化の特色を読み取らせ、自分の言葉で表現できるような学習活動を計画的に行うことが必要であると考えられる。

○ 様々な地図から必要な情報を読み取る力の定着を図る。

第1学年の「世界の姿」では、様々な地図に触れる機会がある。それぞれの目的に応じた地図の特色を理解する一方で、赤道や本初子午線などの地球上の位置を表すための基準となる基礎的・基本的な事項なども確認することが必要である。また、日本以外の地点が中心に描かれた地図などに触れさせる機会を意図的・計画的につくったり、目的に応じた様々な地図の特色に留意し、地図を活用したりするなど、地図に慣れ親しむ機会を地理的分野に限らず、歴史的分野や公民的分野においても位置付けるとよい。

<地図1>



中学校第2学年 「世界と比べた日本の地域的特色」

【特徴的な問題】

- 3 (6) 下線部④について、たけるさんは日本の人口に興味をもち調べたところ、下の資料4、資料5をみつけました。日本の人口の変化について、資料4、資料5から読み取れることを、次の「総人口」「子どもの割合」「高齢者の割合」の3つの〈語〉を用いて、簡潔に書きなさい。

〈語〉 総人口 ・ 子どもの割合 ・ 高齢者の割合

第2学年「世界から見た日本の姿」

出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査において課題がみられた「複数の資料を関連付けること」に関する問題である。今回は、近年の日本の総人口の変化を表す統計資料と、年代が異なる人口構成を表す資料（「人口ピラミッド」）から必要な情報を読み取り、読み取ったことを簡潔な文章でまとめる力が身に付いているかをみる問題を出題している。

指導のポイント (因子②【基礎アップ】、因子④【児童生徒の活動】)

過去の市調査において、各種資料から必要な情報を集めて読み取ること、読み取ったことを簡潔な文章でまとめることに課題がみられるとともに、記述式の問題での無解答率が高い傾向がみられた。このような課題を改善していくためには、各種資料に触れる学習場面を数多く設定し、資料から必要な情報を読み取る視点を明確に示すこと、あらかじめ提示されたキーワードを入れて記述したり、説明したりする学習活動を計画的に取り入れることが必要である。

- 資料の読み取り方の視点を身に付けさせ、読み取ったことを自分の言葉でまとめさせる。

ポイント

- 資料の主題、年度、単位等を確認する。
- 「人口ピラミッド」「高齢者」など重要な用語や難解な語句がある場合は、具体例を用いて分かりやすく説明する。
- 自分の言葉でまとめさせる学習場面では、あらかじめキーワードを提示するなど生徒の学習状況に応じた工夫をする。

この資料からは、3つの〈語〉のうちの「総人口」に係る変化を読み取れるね。

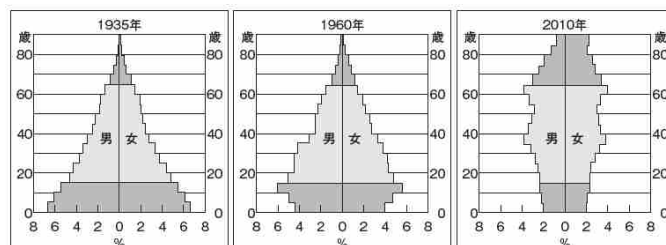
資料4 最近の日本の人口

	総人口(万人)
2011年	12783
2012年	12759
2013年	12741
2014年	12723
2015年	12709
2016年	12693
2017年	12670

「総人口」の数値を比べると、2011年以降、減少し続けていることが読み取れるね。

3つの〈語〉のうちの「高齢者」とは65歳以上の人々のことだよ。3つの「人口ピラミッド」の65歳以上の部分の面積を比較すると、「高齢者の割合」が近年増加していることが読み取れるね。

資料5 日本の人口ピラミッドの変化



3つの〈語〉のうちの「子ども」とは20歳未満の人々のことだよ。3つの「人口ピラミッド」の20歳未満の部分の面積を比較すると、「子どもの割合」が近年減少していることが読み取れるね。

中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（テーマ史）」

【特徴的な問題】

- 4 (4) カードCについて、ちかさんは、江戸時代の大名の統制について説明するために、次の資料1、資料2を用意しました。下の〈ちかさんが用意した説明文〉にある **I** と **II** に当てはまる語を、それぞれ書きなさい。

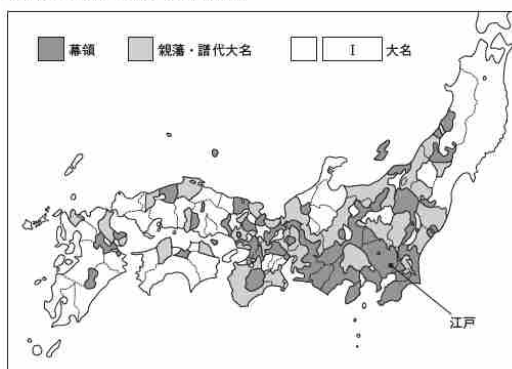
資料1：大名の統制

江戸幕府は、支配体制を強固なものにするために、大名の統制に力をつくした。幕府は、大名を親藩、譜代大名、**I** 大名に分け、老中などの重要な役職には譜代大名を任命した。

〈ちかさんが用意した説明文〉

関ヶ原の戦い以後に徳川氏に従った **I** 大名の多くは、江戸から **II** 地域に配置され、重要な役職に就くことはほとんどなかった。

資料2：幕領・主な大名の配置

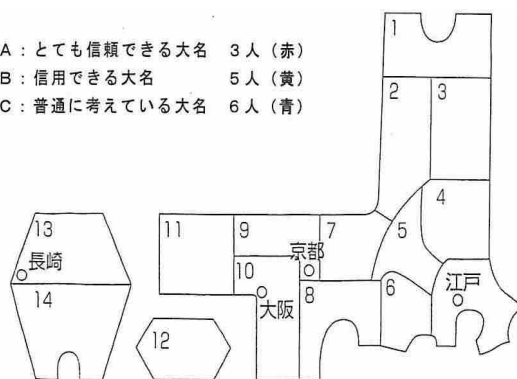


第2学年「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査において課題がみられた「資料を基に、歴史的事象について説明すること」及び「江戸幕府による大名統制についての理解」に関する問題である。今回は、「江戸幕府の大名の配置」について、親藩・譜代大名・外様大名の各大名とその配置について、資料（分布図）を活用して答える問題を出題し、必要な情報を正確に読み取る力や、読み取った内容を指定された文と関連付けて説明する力をみるために出題している。

- A：とても信頼できる大名 3人（赤）
B：信用できる大名 5人（黄）
C：普通に考えている大名 6人（青）



指導のポイント (因子④【児童生徒の活動】)

○ 江戸幕府の支配のしくみについて考察させる。

江戸幕府の支配のしくみ＝幕藩体制を学習する上で、「大名の分類」と「大名の配置」を知ることはとても重要である。そこで、「もしあなたなら、どのような大名を、どのような場所に配置するか」という発問を行い、理由とともに説明する活動を通して、理解を深めさせていく。これにより、実際の「江戸幕府の大名の配置」との共通点や相違点を見だし、当時の工夫の意図についてせまることができる。

その際、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりとして、学習形態を工夫し、個人でまとめた考えを小グループで伝え合い、議論したり共有したりすることは、生徒にとって学習内容の理解の深まりにつながると考えられる。

《予想される生徒の意見》

- 江戸幕府にとって信頼できる大名は、守りが固められるように、江戸周辺に配置する。
- 信頼できる大名を全国各地にちりばめた方がいいのでは…。
- 長崎や大阪は重要な都市だから、ある程度信用できる大名を配置した方がいいと思う。



中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（通史）」

【特徴的な問題】

- 5 (5) 略年表中のDについて、たかしさんは豊臣秀吉の政策について説明するため、下の資料3・資料4を用意しました。下の〈たかしさんが用意した説明文〉にある にあてはまる文を、次の「武士」「農民」の2つの〈語〉を用いて、簡潔に書きなさい。

〈語〉

武 士

農 民

〈たかしさんが用意した説明文〉

豊臣秀吉による刀狩や検地などの政策によって、。

第2学年「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は平成28年度市調査において課題がみられた「複数の資料を基に、歴史上の人物が行った政策について説明すること」に関する問題である。今回は、古代から近世の歴史的事象に関する年表を基に、豊臣秀吉が行った政策について、複数の資料を活用して、与えられた語を基に説明することができるかをみるために出題している。

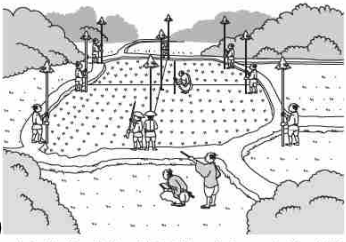
指導のポイント (因子④【児童生徒の活動】)

- 複数の資料の共通性、関連付けを取り入れた指導を行う。

資料3 刀狩令（部分要約）

諸国の百姓が刀やわきざし、弓、やり、鉄砲、そのほかの武器などを持つことは、かたく禁止する。不必要な武器をたくわえ、年貢その他の税をなかなか納めず、ついには一揆をくわだてたりして、領主に対してよからぬ行為をするものは、もちろん処罰する。

資料4 検地の様子



※江戸時代の検地の様子を描いたものですが、当時もこれと同じように行われたと考えられています。

田畑の面積を調べ、所有者を登録

百姓が刀を取り上げられた

農地をもつのは農民、武器をもつのは武士…。これで農民と武士の身分が区別されたんだね。

まずは、それぞれの資料から気付いたことや分かったことを自分の言葉で表現させる。その後、誰によって行われたか、どのような政策を表す資料なのかを調べ、資料についての理解を深めさせる。その上で、政策のねらいについて着目させ、考察させるとともに、この政策により当時の社会や人々の生活はどのように変化したのかという視点でさらに考えを深め、まとめさせるのも効果的である。

- 一貫したテーマを設けて時代の特色をまとめる学習を行う。

5 (5) のように、特定の身分の人々についての様子や変化について理解を深めるには、その身分に関する歴史を大観する作業が必要である。例えば、生活の様子や政策など一貫するテーマを設け、それを年表やワークシートにまとめる学習を行うことで、歴史の流れを広い視野でとらえる力をはぐくむことができると考えられる。

<例> 「農民に対する政策」についてまとめよう。

政策	時代	世紀	キーワード	説明
班田収授法	奈良	8	口分田、…	
太閤検地	安土	16	石高、…	
刀狩	桃山		一揆、…	
五人組	江戸	17	年貢、…	

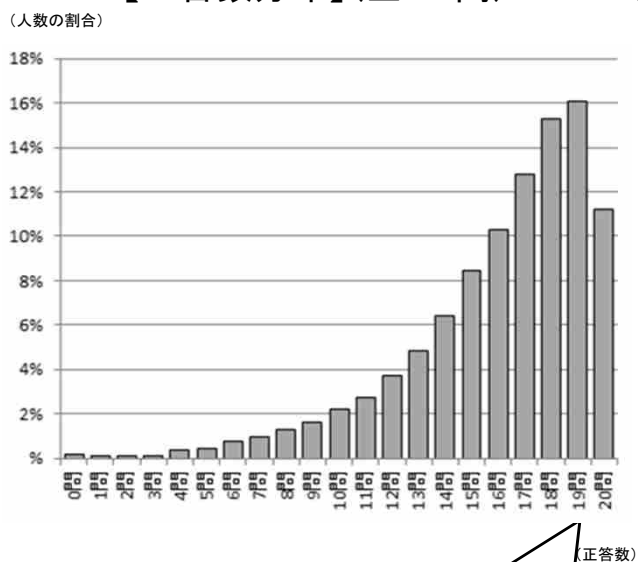


自分の言葉でまとめてみよう！

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

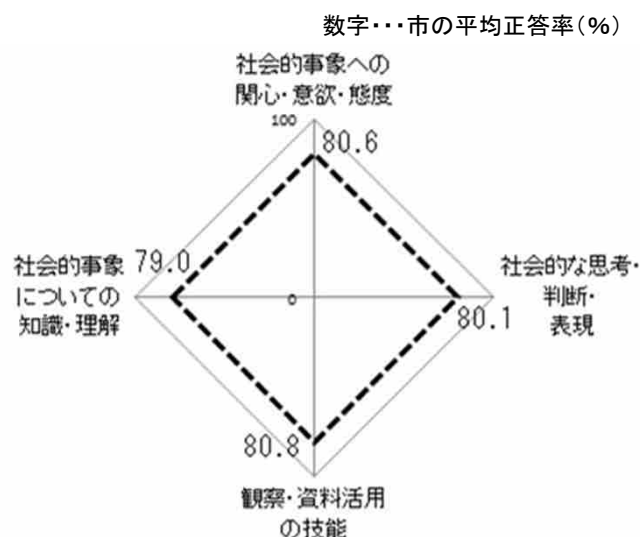
小学校第5学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



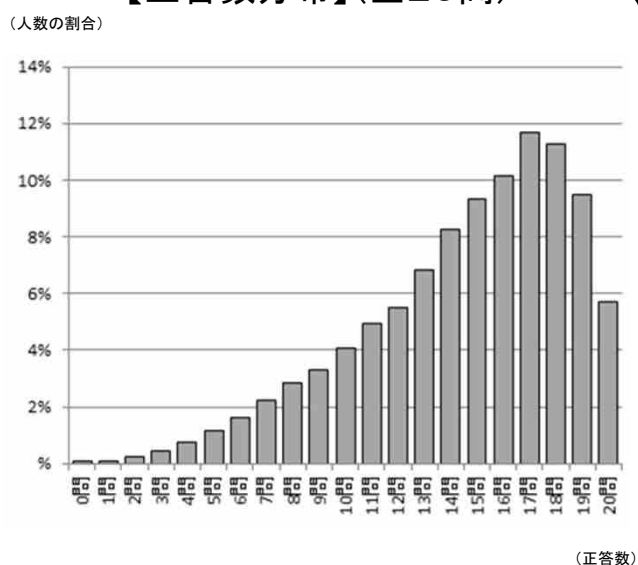
正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、20問中19問正答した児童の割合が16.0%
程度であることを表しています。

【観点別レーダーチャート】

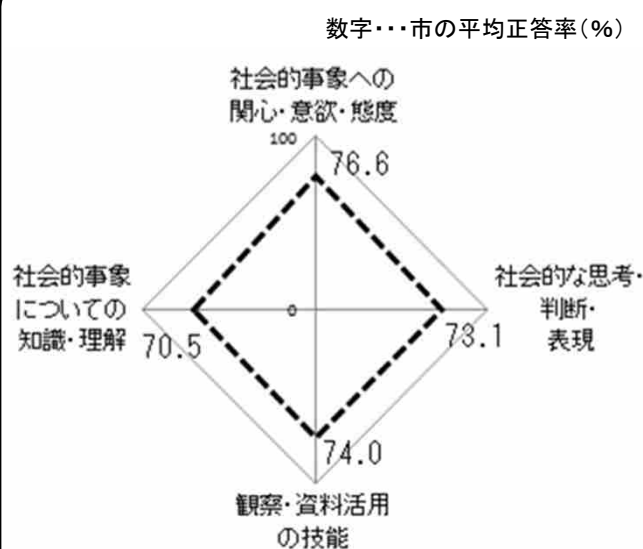


小学校第6学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



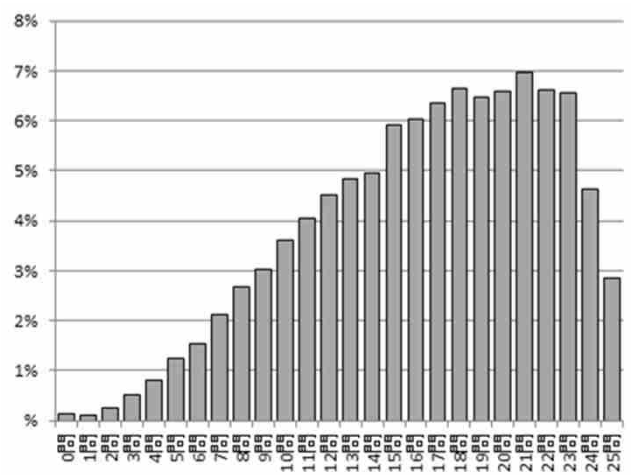
【観点別レーダーチャート】



中学校第1学年【社会】

【正答数分布】(全25問)

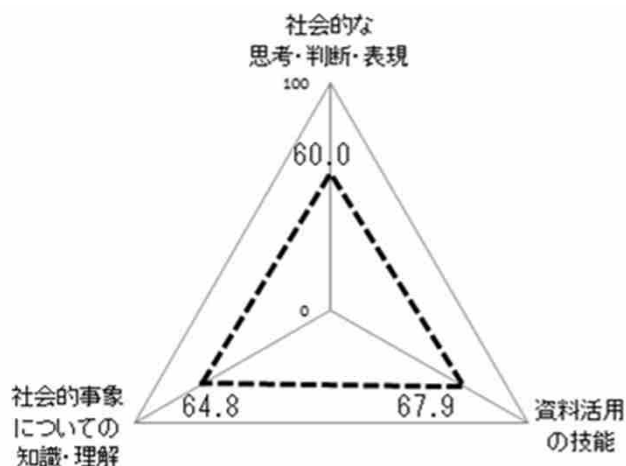
(人数の割合)



(正答数)

【観点別レーダーチャート】

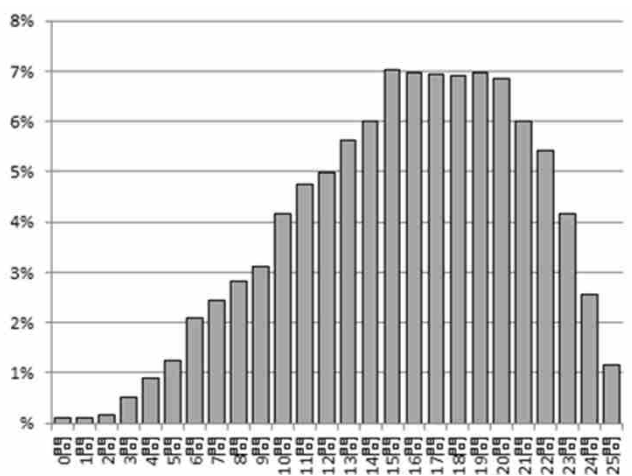
数字・・・市の平均正答率 (%)



中学校第2学年【社会】

【正答数分布】(全25問)

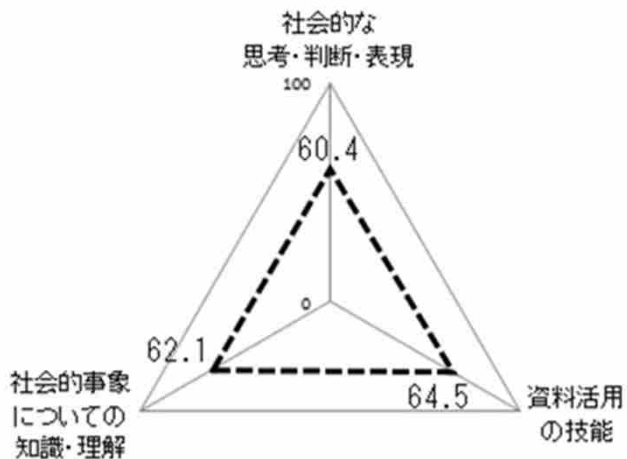
(人数の割合)



(正答数)

【観点別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率 (%)



IV 成果・課題と解決の糸口

(1) 小学校

※ 線は、解決の糸口

<成果>

- 平成28年度から市調査において、継続して課題がみられた「社会的事象の目的や意図」に関する問題については、概ね改善がみられる。引き続き「事故が起きた時の連携」(小5)など人々の協力体制などについて、事例や人の願いなどを関連させながら、理解を深めることが大切である。
- 「工業生産の変化のグラフ」(小5)や「米づくりに伴うくらしの変化」(小6)などでは、複数の資料を比較し、変化の様子を読み取ることができている。
- 「水産物の鮮度を保ったまま、店に届ける工夫」(小5)のように、自らの生活経験に近い事象ほど、理解の深まりがみられる。
- 「明治期以降の人物の業績」については平成27年度市調査において課題がみられたが、今回は改善がみられる。調べ学習や話し合い活動などを通して、歴史上の人物像を明確にし、歴史に親しませることが、「さいたま市小・中一貫教育」の視点からも求められる。

<課題と解決の糸口>

- ▲平成29年度同様、「主な国の穀物の自給率のグラフから必要な情報を読み取る」(小5)問題において、課題がみられる。読み取った情報を整理し、個人で考え、考えをもとに話し合う活動を意図的に位置付け、多面的・多角的に考察できるようにすることが求められる。
- ▲「方位や赤道」(小5・6)「貝塚から出土したもの」(小6)などの知識の定着に課題がみられる。地図や地球儀を用いて、知識を活用しながら地理的な場所を説明させたり、歴史的事象の時代的な背景について自ら表現させたりして、定着を図りたい。
- ▲「野辺山原の気候の特色」(小5)「埼玉県の地形の特色」(小6)などにおいて、複数の資料を関連付け、まとめる問題に課題がみられる。資料の共通点や相違点を出し合い、話し合う中で特色や意味に気付かせ、理解を深める協働的な授業の充実を図りたい。

(2) 中学校

<成果>

- 経年比較の視点から出題した「地球儀を基にした世界の地域構成」に関する問題(中1、中2)は、これまでで最も高い正答率である。「世界の地域構成」「日本の地域区分」「時代名」など授業で繰り返し扱われることの多い社会的事象に関する問題の正答率は高い傾向がみられる。
- 地図や写真資料を基にして、「乾燥帯の地域で暮らす人々の生活について説明した文を選ぶ」問題(中1)や、「複数の資料から読み取った内容について説明した文を選ぶ」問題(中2)の正答率が高い。ICTを効果的に活用し、資料を読み取る力をはぐくむ授業が多く行われている成果として捉えることができる。
- 小学校でも学習している歴史上の人物について、「年代の古い順の並べ替え」に関する問題(中1、中2)の正答率は高い傾向がみられる。「さいたま市小・中一貫教育」の視点を踏まえ、小学校社会の内容との関連を図った指導の成果として捉えることができる。

<課題と解決の糸口>

- ▲複数の資料を基に、指定された語を用いながら「日本の人口に関する課題について説明する」問題(中2)や、「歴史上の人物が行った政策について説明する」問題(中1、中2)に課題がみられる。学習した知識や技能を活用し、自分の言葉で表現する言語活動のさらなる充実を図ることが望まれる。
- ▲「0度の経線」や「緯度と経度」に関する問題(中1)は、平成29年度より正答率が低い。「地図を基に時差を求める」問題(中2)や「平安京が置かれた場所を地図から選ぶ」問題(中2)でも課題がみられるため、地球儀や地図を活用した学習活動を、地理的分野だけでなく、歴史的分野においても計画的に取り入れることが大切である。
- ▲「中世以降の民衆の動き」に関する問題(中2)や、「各時代の代表的な文化財とその特色を選ぶ」問題(中1、中2)に課題がみられる。単元を大きく捉え、他の時代との共通点や相違点に着目して、各時代の特色の理解を深める学習の充実を図りたい。